



2026年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月10日

上場会社名 新日本製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4931 URL <https://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 後藤 孝洋
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役COO (氏名) 福原 光佳 (TEL) 092(720)5800

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第1四半期の連結業績(2025年10月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第1四半期	10,645	1.7	1,518	△0.7	1,540	△0.9	1,061	2.4
2025年9月期第1四半期	10,471	5.3	1,529	31.1	1,554	31.9	1,036	32.3
(注) 包括利益 2026年9月期第1四半期	876百万円(△13.4%)		2025年9月期第1四半期		1,012百万円(27.5%)			

(注) 包括利益 2026年9月期第1四半期 876百万円(△13.4%) 2025年9月期第1四半期 1,012百万円(27.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第1四半期	50.21	—
2025年9月期第1四半期	48.57	48.49

(注) 2026年9月期第1四半期より表示方法の変更を行ったため、2025年9月期第1四半期の経常利益及び対前年同四半期増減率につきましては、当該表示方法の変更を反映した組替え後の数値を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第1四半期	27,355	22,586	82.6
2025年9月期	28,251	22,809	80.7
(参考) 自己資本 2026年9月期第1四半期	22,586百万円	2025年9月期 22,809百万円	

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 52.00	円 銭 52.00
2026年9月期	—	—	—	—	—
2026年9月期(予想)		0.00	—	57.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期(累計)	21,580	6.4	2,540	0.3	2,550	0.6	1,730	84.9
通期	45,000	9.4	5,000	4.6	5,020	2.9	3,400	160.37

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2026年9月期第1四半期より表示方法の変更を行ったため、経常利益の増減率につきましては、当該表示方法の変更を反映した組替え後の数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期 1Q	21,855,200株	2025年9月期	21,855,200株
② 期末自己株式数	2026年9月期 1Q	709,492株	2025年9月期	709,492株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期 1Q	21,145,708株	2025年9月期 1Q	21,347,777株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2026年2月10日(火)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会をオンライン配信する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料は、TDnetで本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(表示方法の変更に関する注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(企業結合等関係)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、訪日外国人客数の増加や雇用・所得環境の持ち直しを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇の影響が継続する中、国際情勢の不安定化や米国の政策動向等もあり、消費者の節約志向は引き続き強く、先行きは不透明な状況が続いております。

このような市場環境のもと、当社グループは『美と健康の「新しい」で、笑顔あふれる毎日をつくる。』というパーカスの実現に向けて、中期経営計画「Growth Next 2027」に基づき重点活動に取り組みました。

通信販売において、化粧品の「PERFECT ONE」では、ECの新規顧客獲得が前年同期を上回るとともに、EC売上高も堅調に推移しました。オフラインにおいては、LTV最大化に向け、コールセンターでのAIを活用したVOCの収集・分析の高度化に向けた取り組みを推進しました。ブランド売上高全体では、スーパーMoisチャージェルのテストマーケティングの進捗が遅延したことにより、売上拡大が想定に届かず、減収での着地となりましたが、ブランド成長に寄与するスピード感を持った取り組みを継続してまいります。「PERFECT ONE FOCUS」では、新商品のフェイスマスクが、発売以降、美容専門雑誌等で高評価を得ており、話題化に向けた取り組みを推進しました。また、11月には新商品「VCチャージホワイトマスク」も発売を開始し、認知は順調に拡大しております。主力商品のクレンジングバームについては、外部評価は良好であるものの、海外ブランドの商品ローンチの影響により、当第1四半期は一時的に減収となりました。フェイスマスクの大容量シリーズの展開に加え、クレンジングバームのリニューアルなど、新商品ローンチのスピードアップを図ることで、成長を加速させてまいります。ヘルスケアの「Fun and Health」では、主力商品へと成長した「Slimore Coffee(スリモアコーヒー)」の新規顧客獲得効率が良好に推移したことを背景に、投資を拡大した結果、大幅な増収となりました。また、機能性表示食品の粉末・顆粒インスタントコーヒー市場において国内売上No. 1(※)を獲得しました。また、11月にリニューアルを実施し、空腹時の血糖値ケア機能を追加した「Wの健康青汁プラス」については、今後も新規顧客層の獲得に向けたテストマーケティングを推進させてまいります。「Wellness Food」においては、合併によるシナジー効果の最大化を一層加速させており、ブランドを新たなステージへと導き、売上高の拡大につなげる取り組みを推進しております。

卸販売においては、インバウンド向け販促強化店舗の拡大を重視する戦略のもと、主要取引先における売り場づくりや、各種施策のテストを実施しました。その結果、インバウンド獲得は着実に推移したもの、広告投資抑制の影響等により、当第1四半期は計画を下回る着地となりましたが、引き続き、インバウンド獲得に向けた取り組みを推進してまいります。また、「Fun and Health」の「Slimore Coffee (スリモアコーヒー)」展開店舗数も順調に拡大し、成長が拡大しております。

海外販売においては、これまで取り組んできたフィジビリティスタディが完了し、成長に向けた販促の実行フェーズへと移行しました。米国では、ナイトクリームやフェイスマスクを導入し、取扱いSKUを拡充しました。また、ヘルスケアの市場規模を踏まえ、「Fun and Health」の商品展開に向けた準備も開始しております。アジアでは、台湾において、国内と同様のタレントを起用するプロモーションを開始しております。

(※) 【対象商品】機能性表示食品 粉末・顆粒インスタントコーヒー (対象期間中販売45製品)

【調査概要】2024年10月～2025年9月の売上をIR・POS・広告・取材などにより算出

TPCマーケティングリサーチ調べ

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,645百万円(前年同期比1.7%増)、営業利益は1,518百万円(前年同期比0.7%減)、経常利益は1,540百万円(前年同期比0.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,061百万円(前年同期比2.4%増)となりました。

また、当社グループの事業セグメントは化粧品、ヘルスケアに関わる商品の通信販売、卸販売及び海外販売でありますが、卸販売及び海外販売の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、896百万円減少して27,355百万円となりました。これは主に、売掛金が213百万円、棚卸資産が268百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が1,098百万円、投資その他の資産が284百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて、673百万円減少して4,768百万円となりました。これは主に、買掛金が179百万円増加した一方で、未払金が205百万円、未払法人税等が496百万円、賞与引当金が132百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて、222百万円減少して22,586百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が186百万円減少したことによるものであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	18,118	17,019
売掛金	3,342	3,556
棚卸資産	2,133	2,402
その他	460	518
貸倒引当金	△33	△36
流动資産合計	24,020	23,460
固定資産		
有形固定資産	1,892	1,860
無形固定資産	506	487
投資その他の資産	1,832	1,547
固定資産合計	4,230	3,895
資産合計	28,251	27,355
負債の部		
流动負債		
買掛金	653	832
1年内返済予定の長期借入金	74	34
未払金	2,287	2,081
未払法人税等	949	452
賞与引当金	214	82
その他	681	696
流动負債合計	4,860	4,180
固定負債		
退職給付に係る負債	189	187
その他	391	400
固定負債合計	581	588
負債合計	5,442	4,768
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,158	4,158
資本剰余金	4,068	4,068
利益剰余金	15,554	15,516
自己株式	△1,363	△1,363
株主資本合計	22,418	22,380
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	378	191
為替換算調整勘定	3	5
退職給付に係る調整累計額	9	8
その他の包括利益累計額合計	391	205
純資産合計	22,809	22,586
負債純資産合計	28,251	27,355

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
売上高	10,471	10,645
売上原価	2,086	2,142
売上総利益	8,385	8,503
販売費及び一般管理費	6,855	6,984
営業利益	1,529	1,518
営業外収益		
受取利息	1	5
受取配当金	0	0
受取賃貸料	3	3
為替差益	13	5
投資損失引当金戻入額	1	46
その他	10	7
営業外収益合計	31	69
営業外費用		
支払利息	0	0
投資有価証券評価損	1	44
情報セキュリティ対策費	4	—
その他	0	2
営業外費用合計	6	47
経常利益	1,554	1,540
税金等調整前四半期純利益	1,554	1,540
法人税、住民税及び事業税	432	415
法人税等調整額	85	63
法人税等合計	517	479
四半期純利益	1,036	1,061
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,036	1,061

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,036	1,061
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△186
為替換算調整勘定	△23	2
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	△24	△185
四半期包括利益	1,012	876
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,012	876

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更に関する注記)

(連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間において、独立掲記しておりました「特別利益」の「投資損失引当金戻入額」は、経営成績をより適切に表示するため、当第1四半期連結累計期間より「営業外収益」に表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の連結損益計算書において、「特別利益」に表示していた「投資損失引当金戻入額」1百万円は、「営業外収益」の「投資損失引当金戻入額」1百万円として組み替えております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	73百万円	76百万円
のれんの償却額	26百万円	一百万円

(セグメント情報等の注記)

当社グループの事業セグメントは化粧品、ヘルスケアに関わる商品の通信販売、卸販売及び海外販売でありますが、卸販売及び海外販売の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

当社は、2025年8月5日開催の取締役会において、2025年10月1日を効力発生日として、当社を存続会社、当社の連結子会社である株式会社フラット・クラフト(以下「フラット・クラフト」といいます。)を消滅会社とする吸収合併(以下「本合併」といいます。)を決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 株式会社フラット・クラフト

事業の内容 食品の輸入、卸及び販売

(2) 企業結合日

2025年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、フラット・クラフトを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

新日本製薬株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社は、ペーパスである『美と健康の「新しい」で、笑顔あふれる毎日をつくる。』の実現に向け、中期経営計画「Growth Next 2027」の目標達成に向けた取り組みを推進しております。

この度、ヘルスケア事業を構成する完全子会社のフラット・クラフトを合併することで、ナレッジの共有によるシナジー効果の最大化に加え、経営資源の効率的な活用、及び迅速かつ柔軟な意思決定を可能とする体制強化を図り、中期経営計画の目標達成に向けた取り組みを一層加速してまいります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。